

6月 月例研修会報告 葛城氏ゆかりの地を巡る

桜木 晴代

雨の心配をよそに暑からず寒からずの絶好の日となった6月5日に13名の参加のもと実施された。

八木駅前からバスに揺られること50分。風の森で下車。神々の里として、天孫降臨を初めとする数々の神話の舞台となったとされる葛城古道を歩く。路傍にはアザミやホタルブクロ、ハギが風に揺れている。



最初に訪れたのは高鴨神社。全国のカモ（鴨・加茂・賀茂）神社の総本社。付近からの出土品から鴨一族の勢力の大きさが明らかになりつつある。



たかまひこじんじや

次は高天彦神社へ。神社は古代豪族葛城氏の最高神（高皇産霊神）を祀っており、形体は古く、御神体は神社背後の白雲峰のため本殿はない。

たかまではしもといん

高天寺橋本院の休憩所をかりての昼食。四季折々の花が咲くという寺でありオオヤマレンゲやヒメシヤラなど珍しい花が昼餉に彩りと潤いを与えてくれた。



昼食後かなり急な丸木の階段を上ること数十分。山道では大雨の影響と思われる数本の倒木の下をくぐりながら歩き続ける。途中で、参加者全員が初めてと思われる植物オニヤガラに遭遇。



いちわそうず

興福寺の一和僧都が開基した浄土宗の寺・極楽寺へ。七堂伽藍を有する大寺院であったが、筒井順慶に吐田氏が滅ぼされ鐘楼門のみが残ったという。



古道と言うにふさわしい歴史を感じる古民家の家並を通り抜けると、水越峠に向かう道と紀州に向かう道の交差点にたどり着く。歩を進め最後に訪れたのは長柄神社へ。最近の発掘調査により、葛城一族の中心的な館跡があったと推定されている。



蒼く連なる周囲の山々と水をたたえた田というこの季節ならではの和の風景を堪能する一日でもあった。バスの時間の関係で一言主神社の訪問を諦め宮戸橋バス停へ。新宮が始発という路線バスで帰路につく。

参加者からは下村氏の解説は詳細かつ簡潔で古代史への興味が増したと好評であった。